

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1072 2009年7月号

地域材利用促進協議会の開催 ～民有林と連携した地域材の需要拡大～

民国連携による地域材の需要拡大に向けて四国四県と四国森林管理局は地域材利用促進協議会を設立しました。

【詳細は2頁以降に掲載】



協議会の様子

地域材利用促進協議会の開催

～民有林と連携した地域材の需要拡大～



民有林と国有林が連携して地域材の需要拡大策に取り組むために、第一回地域材利用促進会議を六月一八日に森林管理局において開催しました。

昨年九月以降の金融危機に端を発した世界的規模の景気後退により住宅着工戸数の減少や木材加工業界の生産調整など、森林・林業を取り巻く状況は依然として厳しい状況にあります。

また、このような木材需要の低迷は、京都議定書の二酸化炭素削減目標の達成に向けた間伐の推進等にも支障を与えかねない状況となっています。



愛媛県 (木製残存型枠)

今回の協議会は、このような厳しい状況に対応していくために、四国の民有林・国有林関係者が地域材の需要拡大に向けて知恵を出し合い、各機関が連携した取組を推進することを目的に、森林管理局が四国四県に呼びかけ開催したものです。

当日の協議会には、四国四県の地域材利用の担当者十一人、四国森林管理局の担当者九人が出席し、まず最初に協議会の規約について協議、確認を行いました。

協議会は、地域材利用に関する四国四県の担当課室長及び担



高知県 (高知駅舎)



徳島県 (木製ガードレール)

当者並びに四国森林管理局の関係課室長及び担当者で構成され、事務局は森林管理局の販売課に設置しました。また、構成員で互選される会長には森林管理局の販売課長が就任しました。

協議会の正式な発足を受けて、第一回の協議会として、各県が地域材利用に関する取組事例や二年度の第一次補正予算で検討している事業内容を紹介し、活発な意見交換を行いました。

地域材の需要拡大策についてはこれまでも各県において独自に取り組まれてきたところであり、先進的な取組もある一方で、現在の厳しい環境の下で、木材重要な拡大を図るための決め手となる施策を各県が模索している様子を紹介されました。協議会では各県におけるこれらの先

進的な取組や課題などの情報を共有し、今後の連携した取組につないでいくこととしています。

また、四国森林管理局からは、九州における間伐材入りコピーパーの製造・普及の取組を紹介し、ここ四国においても同様の間伐紙の製造・普及に取り組みことを呼びかけて、今後、継続

して協議を行っていくことになりました。

協議会では、今後もこのような情報交換や意見交換を通じて、四国の民有林・国有林が一体となった地域材の需要拡大の取組を一步一歩前進させることとしています。

流域を含めた天然更新技術現地検討会等を開催
～指導普及課・森林技術センター～

六月二日から二五日までの二日間、技術開発課題であるスギ及びヒノキの天然更新技術についての現地検討会を安芸森林管理局管内の和田山・西ノ川山

国有林で開催しました。

検討会には、元京都大学助教の赤井龍男氏、高知大学農学部教授塚本次郎氏、(独)森林総合研究所四国支所 鳥居厚志研究調整監、同じく酒井寿夫森林生態系変動研究グループ長らの専門家を招き、四国森林管理局川上計画部長をはじめ関係職員、安芸森林管理局の関係職員が出席し、天然更新技術の確立に向けた検討に議論を交わしました。



ヤナセスギ天然更新試験地

また、併せて現地見学会として、奈半利川水系ダム検討委員会(高知県が事務局) 委員や関係行政機関等も招いて四国森林管理局の取組について説明しました。

一日目は、馬路村魚梁瀬の



ヒノキ天然更新試験地

「杉の家」で、四国森林管理局、安芸森林管理署から、これまでのスギ天然更新技術の取組概要、魚梁瀬地区における治山事業などについて説明を行った後、和田山国有林のヤナセスギ天然更新試験地へ移動し、現地での検討に入りました。現地では択伐による架線集材跡地とヘリコプター集材跡地の①稚樹の発生と成長について、②成長分析や稚樹を被圧している植生の取扱いについて、③ニホンジカ食害対策などについて検討を行いました。また、本試験地は、調査開始後三年が経過し、初期段階の稚樹の発生・成長の諸条件について、一定の成果が得られたことから

「ヤナセスギ天然更新技術の指針(案)」を作成することについても検討されました。

二日目は、同署管内西ノ川山国有林のヒノキ天然更新試験地で、①ヒノキ稚樹の発生状況、②成育促進のため実施した下層植生の刈払い箇所において、稚樹の発生成育状況、今後の照度管理のあり方、③ニホンジカ食害対策について検討を行いました

天然更新技術に関わる技術開発課題については、まだまだ多くの課題がありますが、今後とも継続して調査に取組むことにより、天然更新技術の確立を図っていくこととされています。

六月二三日に、高知市・土佐町に所在する「工石山」(嶺北森林管理署管内)において、また、七月八日に、香川県丸亀市・坂出市に所在する「飯野山」(香川森林管理事務所管内)において、「森林・林業体験交流促進対策検討会」において、「森林・林業体験交流促進対策検討

「工石山」、「飯野山」で
「森林・林業体験交流促進
対策検討会」を開催
(指導普及課)



飯野山地域の検討会の様子

会」を開催しました。

平成二二年度から開始された「森林・林業体験交流促進対策」事業は、森林・林業体験活動の場としてふさわしい豊かな森林環境を有する国有林野において、都市部等の小学生を対象とした自然体験の機会を提供するため、多様な主体と連携し、森林学習・体験プログラムやフィールドの整備等を実施するものです。

全国十三地域で実施され、四国森林管理局管内では、「工石山」と「飯野山」で二二年度までの二カ年間に渡って、また、愛媛県西予市・内子町の「大野ヶ原」、高知県黒潮町の「入野松原」において、二二

年度に実施することとしているところでです。

本検討会は、「工石山」と「飯野山」のそれぞれの地域における当該事業の全体構想及び学習・体験プログラムの作成・取りまとめを行うため、有識者や教育関係者、地域の活動団体等の方を委員とし、課題、整備の方向性等についての意見を聴くことを目的として開催したものです。

「工石山地域」での検討会では、「現在、活動している団体の自然観察のガイドのノウハウをプログラム化することが大事」、「理科的なものだけでなく、音楽や絵を描く、体力づくりといった観点での教



工石山地域の検討会の様子

育利用も検討すべき」、「数千人単位での休憩場所・空間をプログラムに合わせ設定する必要」、「フィールドの整備に当たっては、できるだけ現状のままとし、手を加えないで欲しい」、「プログラムを活用するための指導者の養成が重要」などといった意見が出されました。

また、「飯野山地域」での検討会では、「学年に応じた段階的なプログラムを作成し、提供していく必要」、「プログラムの提供等に当たっては、パンフレットの作成や掲示板の設置により情報を発信するなど工夫が必要」、「トイレの整備や説明板の適切な設置が必要」などといった意見が出されました。

さらに、「工石山地域」及び「飯野山地域」共通して、登山道の整備に対する意見が出されました。

今回出された意見については、当該事業の全体構想及び学習・体験プログラムの作成に係る委託調査業務の調査実施要領に反映することとしており、今後、九月、十一月にも検討会を開催して、取りまとめを行う予定です。



木材市場での様子

今年度のこの時期では、三年生を対象に、木材流通、治山事業、林道事業の三コースを、六月二二、二三、二四日の三日間実施しました。

国有林の現場から
農業高校生を対象にした
森林環境教育を実施
〔指導普及課・森林整備課・治山課〕

この森林環境教育は、森林総合学科のカリキュラムとして位置付けられ実施しています。実施箇所は嶺北地域の民間の木材市場、加工施設や、嶺北森林管理署及び高知中部森林管理署管内の国有林で治山工事及び林道工事等の現場などです。

木材の流通では、嶺北地域の林業の取り組みとして、講師の嶺北木材協同組合理事長から、森林、木材市場、木材加工施設、木造の小学校を案内して貰い、森林整備と木材利用の重要性、木材の利点・欠点を十分理解し利用することが重要であることなどについて説明を受けました。



林道工事現場での様子

今回の学習の中で、生徒達は、一日目の木材の流通で、「木材が使われないことの危機」は印象深く頭に残ったようで、治山工事の現場で国産木材が型枠等に使用されていることについて積極的に質問していたのが印象的でした。



木製残存型枠を使用した治山ダムをチェック

今後、一年生については、林業機械を使用した現場等で学習し、二年生については、最近の森林・林業・木材産業を取り巻く状況や四国の森林・林業の現況等について座学での実施を予定しています。



熱心にワークシートへ記入中

愛媛県の松野町立松野西小学校は、例年、四年生の総合的な学習の時間を活用した森林環境学習に取り組んでいます。今年度もこれまでに、三回の学習が行われていきます。第一回目は、

各地の
たより



〔総合的な学習時間を活用した森林環境教育〕
〈ふれあいセンター〉

〔第一回目〕
校庭の樹木を学習

「木を知ろう」をテーマに学校の周りにある樹木学習を、五月十二日に実施しました。まず最初に、プロジェクターを使って、ふれあいセンターの活動と森林の働きについて解りやすく説明しました。その後、校庭に出て、二班に分かれて、三九種類の樹木ごとに、葉っぱの特徴や名前の由来等について説明すると、児童達は、熱心にワークシートへ書き込んでいました。

ふりかえりでは、児童から「松野西小学校で珍しい木は？」、「一番大きくなる木は？」などの質問に答えました。最後に、「校庭には色々な種類の樹木があり勉強になりました」、「自分の家の庭に植えられている木がありました」など多くの、感想がありました。樹木への関心が深まったようです。

〔第二回目〕
校庭の樹木に名板を取付

六月十七日、二回目は、一回目に学習した校庭の樹木の名板を製作して取り付けました。最初に、用意された輪切りの板を手にした児童に、年輪の話をして木への関心を持たせた



樹木名板取り付け中

後、早速、思い思いのイラストや樹木名を下書きし、ポスターカラーで色付けしていききました。そして、完成した名板を持って校庭へ出て、前回の復習をしながら三〇本の木に取り付けていきました。

終了後、「一年生が見ても木の名前が分かるようになって良かった」「木にも年齢があることが分かりました」などの感想がありました。

児童達は、毎日目にする校庭の樹木に、自分たちが製作した名板を取り付けることによって、全校で樹木名を覚えたり樹木や森林に関心を持つきっかけがつけられたようです。

【第三回目】
発想に脱帽！
ユニークな木工作品も完成！



何ができるかお楽しみ

六月二十三日、第三回目は、「木に親しもう」をテーマに木工クラフトに挑戦しました。

作業を始める前に、木材の特徴などを説明しながら、「木は水に浮く？」の実験をすると、「浮く、浮く」と答えていた児童も、リグナムバイタは沈むことがわかってビックリの様子でした。次に、この日使用する材料のソメイヨシノとウツギの名前の由来や特徴と、道具の安全な使い方も説明しました。

材料を選んだ児童は、職員の指導を受けながら、早速ノコギリ

リヤクラフトナイフを手に作品作りに挑戦しました。見本通りにカブトムシや動物のストラップなどを作ろうとする児童が多い中、試行錯誤をしながらも、自分の発想で立体作品を完成させた男子には、職員も脱帽。

ふりかえりでは、「難しいところもあったけど、世界にひとつだけの作品ができてうれしい」「家族にプレゼントしたい」などの発表があり、思い出に残る「木に親しむ学習」となりました。

リグナムバイタは、世界で一番重い木材として知られ水に沈む。

耐久性、耐摩耗性が高い。

地域における

森林環境教育の推進

〈高知中部署〉

当署では、県立香北青少年の家で開催される森林教室に職員を随時派遣しています。最近の二ヶ月でも、次の五校に向けて講師をつとめてきました。

〆五月二十八日 香美市立香長小学校五年生・一〇名〃

〆六月五日 土佐市立新居小学



職員の話熱心に聞き入る子どもたち

校五年生・一三名〃

〆六月九日 土佐市立高岡第二小学校五年生・一四名〃

〆六月一六日 いの町立川内小学校五年生・二二名〃

〆七月二日 いの町立下八川小学校三〃五年生・一三名〃

この森林教室では、まず森林の持つ水源かん養や、土砂の流出防備など、森林の働きについて絵を使いながらわかりやすく説明します。次に行うプログラムが木工クラフトの作成です。木とのふれあい体験ということで、サクラなどの小枝を使って動物や昆虫の置物を作りました。はじめはノコギリを上手に使えず戸惑っていた子どもも、

遊々の森で

〈香川所〉

六月十七日、高松市立屋島東小学校の三年生二十八名を対象に、同校近くの屋島国有林に設置された「遊々の森」で森林教室を行い、森林の働きについて学習しました。

こつをつかむと次々に個性的な作品を作り上げていきます。

教室終了後のアンケートには、「森林は人間を守ってくれたりするから、壊さないようにしたいらいいと思うし、自分も汚さないようにしたいです。」「森林は僕たちが生きるために大事だとわかったので大切にしたいです。僕が思っていた以上に森林はたくさんの方に使われているのだとわかりました。」などの感想が書かれています。

ことも多く、地域の子もたちに森林を持つ公益的機能について理解を深めてもらう助となれた事を実感しています。

これからも講師派遣のご要望にできる限りお応えしていきたいと考えています。



水の浸透実験の様子

森林教室では、ペットボトルを使った簡単な装置で、遊々の森の土と運動場の土との水の浸透具合の違いを比較しました。児童たちは、運動場の土があまり水を通さないのに対して、遊々の森の土は水をゆっくりに通すのを目の当たりにして、「運動場の土は全然水を通さん」「なんで？」と興味津々でした。

最後に、遊々の森に設置されたブランコやハンモックなどの遊具で遊びました。小学生らしく、元気いっぱいでした。身近な森の中で学んだり遊んだりすることが少なくなった現代ですが、この遊々の森での体験が森林や環境について考えるきっかけになってくれればよいと思います。

上手に作れたよ!
 (徳島署)

六月一八日に徳島市立芝原児童館にて、児童一五名を対象とした木工教室を開催しました。

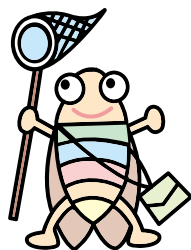
職員による自己紹介の後、パネルを使いながら、地球温暖化と木材利用についての説明を一〇分程度行いました。子どもたちの発言が相次ぎ、とてもにぎやかな森林教室となりました。

その後、除伐木を利用したイヌのマスクと木の実で飾った写真立ての製作を行いました。イヌの表情にも個性がありました。木の実を利用した飾



森林教室の様子

り付けではとくに子どもたちの個性が光っていました。ドングリに顔を描いてたくさん並べると蝶や花の絵を書いている子がいたり、今後の参考になるよう来上りました。



『平成二十一年度
 労働安全事業場の
 受賞について』

〔森林技術センター〕

平成二十一年七月一日に開催された、安全大会(局)において、労働安全に関し優良事業場の表彰状を授与されました。

表彰の対象となった期間は、過去二年以上無災害で、かつ実労働延べ時間が二万時間以上(二八、八八九時間、係員一名及び作業班七名)の無災害記録が評価され表彰されました。

当森林技術センターでの作業は、技術開発に関する試験



安全大会優良事業場表彰

地調査を主体に、研修作業路の作設、保育間伐・除伐等の造林作業及び試験地周辺の刈払い等補助的作業を実施しています。

近年の災害の傾向を見ると、刃物を取り扱う作業中に手工具の誤った取り扱いにより、発生する災害が多いように見受けられます。

これらの災害は、基本的な作業動作及び作業手順を遵守していれば防げるものが殆どと考えております。このことから、我々も基本動作の重要性を認識し、遵守しているところではあります。

今後も無災害を更に継続できるよう、森林技術センター全職員挙げて災害のない明るい職場作りに向け取り組んでいきたいと考えております。

また、試験地における関係署・機関等には日頃から御協力頂き感謝申し上げます。引き続き御協力方お願いいたします。



間伐作業の様子

「森ヶ内山ふれあい事業」にボランティアが集合

〈四万十森林管理署〉

天気にも恵まれた六月二十五日、森ヶ内山国有林三〇三八林班で「しこくの森づくりに参加する会」(山中巨司代表)三十四名のボランティアの方々と四十森林管理署の職員十一名が参加して、保育間伐作業と歩道修理作業を実施しました。

この森ヶ内山ふれあい事業については、昨年度協定を締結して間伐作業を実施しましたが、今年度は保育間伐作業等が

二回計画されています。

当日は、今年度一回目の取組ということで、作業着手前に窪川森林事務所の前席森林官より間伐作業等における注意事項等を説明し、その後三〇四名が一組となって作業を実施しました。

日頃使い慣れない鋸、鉋等を使用して、汗だくになりながら約1haの保育間伐作業と歩道修理を行い、その後、近くの桜公園に移動して参加者全員で昼食を取りました。

最後に代表から、本日の作業に対するお礼と十月に実施する二回目の取り組みに対する協力依頼等の挨拶で締めくくり、現地解散となりました。

ふれあいの森で

下刈り作業

〈高知中部署〉

六月六日、物部川源流部に位置する別府山国有林のふれあいの森「運輸労働連出会の森」で、ボランティア二三名が下刈り作業を行いました。

当日は、好天に恵まれ、涼しい風が吹くなか、参加者たちは「どれが植えた木かわからん。」



ホオノキ板の手作り時計

「見つけた。」などと口にしなから、植栽木を傷つけないように細心の注意を払いながら作業を進めていきました。

協定期間も五年目になり、すっかりベテランの参加者もいて、二時間あまりで区域全域を刈り払うことが出来ました。

翌日には、当署駐車場にて木工教室を行い、ホオノキの板に、各々で文字盤を飾り付けた手作り時計を作成しました。

今年度で協定期間は満了となりますが、今までの経験を生かし、これからも何らかのかたちで、森林を育てる活動にご協力いただけることを願っています。

職員定期表彰式

〈総務課〉

平成二二年度国有林野事業職員定期表彰式を、七月九日(日)に大会議室で行いました。

表彰式では、篠田局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方々への労いの言葉とともに、「長年に亘り培われた豊富な見識と経験を活かして、開かれた「国民の森林」に向けて、また、「美しい森林づくり」を推進するために引き続き「尽力願いたい」との式辞があり、受賞者一人一人に表彰状が手渡され、代表して、愛媛署の狩野誠さんから「本日を契機に新たな気持ちで業務に邁進することを誓います」との答辞がありました。

〇一級精勤章(二五名)

- | | | | |
|--------|---|----|----|
| 総務部 | 事 | 高岡 | 周二 |
| 計画部 | 技 | 柳園 | 幸徳 |
| 森林整備部 | 技 | 福吉 | 修二 |
| 技術センター | 基 | 森 | 孝幸 |
| 徳島署 | 技 | 北代 | 典史 |
| 愛媛署 | 技 | 狩野 | 誠 |
| | 技 | 徳留 | 学 |
| | 技 | 河野 | 潤一 |
| | 技 | 横山 | 満 |



〇二級精勤章(四名)

- | | | | |
|------|---|----|----|
| 四万十署 | 技 | 門脇 | 博幸 |
| 嶺北署 | 技 | 松山 | 浩信 |
| | 基 | 外山 | 正明 |
| | 基 | 今城 | 幸男 |
| | 技 | 中平 | 敏久 |
| | 技 | 本田 | 雄二 |
| | 技 | 野田 | 満浩 |
| | 事 | 木原 | 久明 |
| 安芸署 | 事 | 土井 | 均 |
| | 技 | 後藤 | 正美 |
| | 基 | 正岡 | 勇夫 |
| | 基 | 近藤 | 正信 |
| | 基 | 島田 | 朝彰 |
| | 基 | 田邊 | 和男 |
| | 基 | 木下 | 英年 |
| | 基 | 中元 | 久夫 |
| 徳島署 | 基 | 川村 | 栄二 |
| 愛媛署 | 技 | 後藤 | 和昭 |
| 嶺北署 | 技 | 山内 | 賢 |
| | 技 | 太田 | 勝稔 |



第5回

森林の俳句コンテスト

作品募集

森林はさまざまな働きをして、私たちの快適な生活を支えてくれます。
私たちの暮らしに深くむすびついている森林の働きや林業について俳句を作ってみませんか。
小中学生のみなさんの応募をお待ちしております。

主催 四国森林管理局・森林の俳句コンテスト実行委員会
協賛 (社)国土緑化推進機構、(財)日本森林林業振興会高知支部
後援 高知県教育委員会、徳島県教育委員会、香川県教育委員会
愛媛県教育委員会、高知新聞社、徳島新聞社、四国新聞社
愛媛新聞社

受付期間 平成21年6月23日(火)～9月11日(金)「当日消印有効」

テーマ 「森林・林業」

部門 小学生の部、中学生の部

応募方法

- メールまたは四国森林管理局ホームページ上から、もしくは官製はがき、FAXで応募ください。
- 学校単位で応募される場合は、学校名、氏名、学年を明記してください。
- 個人で応募される場合は、住所、氏名、学校名、電話番号を明記してください。(作品及び氏名にはふりがなをつけてください)
- 応募点数 1人2句以内。
- 応募作品は本人が創作した未発表のものに限ります。

応募先

- はがき 〒780-8528 高知市丸ノ内1-3-30 四国森林管理局「俳句コンテスト」係
- Eメール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp
- FAX 088-821-4834

選考・発表

- 選者 森 武司、松林 朝蒼
- 入賞者には平成21年10月中に通知します。選外の通知はしません。

表彰

- 四国森林管理局長賞 各部門 1作品(賞状、記念品)
- 優秀賞 各部門 4作品(賞状、記念品)
- その他、秀逸、佳作を選出。ただし、1人1賞とします。
- 平成21年11月上旬

その他 入賞作品に関する一切の権利は主催者側に帰属するものとします。
個人情報については厳重に管理し、利用目的以外には使用しません。



問い合わせ先



四国森林管理局総務課「俳句コンテスト」係
TEL 088-821-2000